

募集案内

研修 C

C がん化学療法看護認定看護師フォローアップ研修

1. 研修目的

最新のがんゲノム医療や免疫療法を含むがん薬物療法、ゲノム医療における倫理的課題や遺伝カウンセリングについて学び、チーム医療において認定看護師としての役割を果たすための基盤とする。

施設における自分自身の活動をふまえ、今後の活動の方向性を考える機会とする。

2. 研修目標

- 1) 最新のがんゲノム医療や免疫療法を含むがん薬物療法について学び、医療の動向をふまえた看護を考える。
- 2) ゲノム医療における、遺伝カウンセリングの役割や実際についての理解を深める。
- 3) ゲノム医療における倫理的課題について考えるとともに、意思決定支援についての理解を深める。
- 4) 自施設における認定看護師としての取り組みやその成果を共有し、課題に対して相互に学びあう。
- 5) がん薬物療法におけるチーム医療のあり方および認定看護師としての役割について方向性を明確にする。

3. 研修内容

最新のがん薬物療法に関する講義、がん薬物療法の適応判定の遺伝学的検査の過程で明らかになる可能性がある家族性腫瘍に対する本人や家族への遺伝カウンセリングに関する講義および倫理的課題に関する講義を設定しました。

また、がん化学療法看護師の活動の実際を紹介しあいながら、お互いに学びあう時間（グループワーク：GW）も設定しました。

< 1日目 >

- 1) 最新のがん薬物療法とチーム医療における課題と実践（講義とGW）
- 2) 根拠に基づいたがん薬物療法看護実践（講義）
- 3) 分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬の適応判定と遺伝学的検査（講義）

< 2日目 >

- 1) 免疫チェックポイント阻害薬等の新薬の臨床導入やゲノム医療における看護師の役割に関する情報交換（GW）
- 2) がんゲノム医療における遺伝カウンセリングの役割と遺伝性腫瘍について（講義）
- 3) ゲノム医療に係る倫理的課題（講義）
- 4) 認定看護師としての今後の目標・行動計画：今後の活動のための認定看護師ネットワークについて（GW）

* 研修内容は一部変更する場合があります。

*従来のがん薬物療法の適応判定のため遺伝子変異検査（EGFR、HER2、K-ras 等）は、がん細胞における治療標的の発現に関する検査で、がんの遺伝に関わる検査ではありませんでした。しかし、昨今導入された、PARP 阻害薬における乳がんの BRCA 検査や免疫チェックポイント阻害薬におけるマイクロサテライト不安定性(MSI)の検査は、適応判定とともに家族性腫瘍のスクリーニングの検査でもあり、結果によっては、本人や家族に対する遺伝相談（遺伝カウンセリング）が必要となる場合があります。第3期がん対策推進基本計画でもがんゲノム医療が推進される中、がん化学療法看護においても必要になる知識として学びます。

4. 研修期間

2019年12月19日（木）～12月20日（金） 2日間

5. 講師

飯野 京子（国立看護大学校 教授）

竹村 玲子（国立看護大学校 教授）

山本 昇（国立がん研究センター中央病院 先端医療科 呼吸器内科
研究実施管理部長）

荒川 玲子（国立国際医療研究センター病院 臨床ゲノム科医長
メディカルゲノムセンター 診療コーディネーター室長）

高島 響子（国立国際医療研究センター メディカルゲノムセンター
ゲノム医療支援部門ゲノム医療倫理室 上級研究員）

6. 対象

がん化学療法看護認定看護師

7. 定員

60名

8. 研修場所

国立看護大学校（東京都清瀬市梅園1-2-1）

9. 受講証について

全プログラムを受講した者に受講証を発行します。

10. 経費

研修に係る費用は、10,000円です。（税込、資料代込）
事前振り込みとなります。受講決定後メールにてご案内します。

11. その他

1) 敷地内全面禁煙について

国立看護大学校敷地内は、全面禁煙です。

2) 連絡先

研修に関する問合せ

国立看護大学校研修部

〒204-8575 東京都清瀬市梅園1-2-1

E-mail: kensyubu-edc@adm.ncn.ac.jp

TEL: 042-495-2211 内線 6001.6019（平日 8時30分～17時）